

## ライフケア事業

### ヘルスケア関連製品

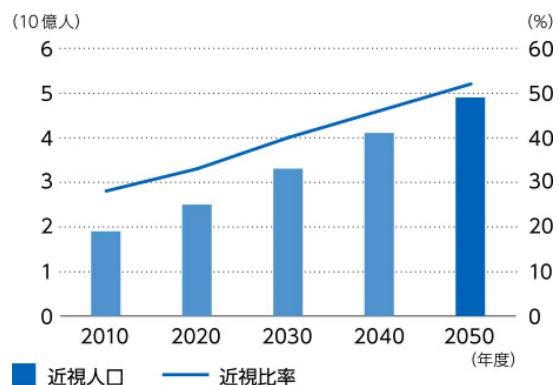
#### メガネレンズ

##### 市場環境

世界的な高齢人口の増加、子どもの近視率の増加、デジタルライフスタイルによるスクリーンタイムの増加などの要因により、近視の急速な進行は世界的な健康問題となっています。また、健康やウェルビーイングに対する意識が世界的に高まっています。こうしたなか、新興国の経済成長による購買力の向上や目の健康に対する意識の高まりもあり、メガネレンズ市場は今後も安定した成長が見込まれています。

なお、世界的に不透明な経済環境が続いていますが、メガネレンズは生活必需品であることや欧米諸国では民間・公的保険による償還対象品であることなどから、比較的景気の影響を受けにくいと考えられます。

近視人口の推移予測



出典: Holden B. A. et al. Global Prevalence of Myopia and High Myopia and Temporal Trends from 2000 through 2050. Ophthalmology. 2016 May;123(5):1036-1042

##### 当社の状況

###### 事業内容

メガネレンズの原料である樹脂などを素材メーカーから調達し、レンズを製造、チェーン店や独立系も含むメガネ店に卸しています。

「生涯にわたる視力ケアソリューションを提供する」というミッションの下、一般的な単焦点レンズから高齢者向けの累進レンズ、小児近視進行抑制用レンズまで、あらゆるライフステージに対応する多種多様なレンズを提供しています。お客様に最高の製品をお届けすべく、光学設計/レンズコーティング/調光レンズ\*などの機能性向上に向けた研究開発に継続的に注力していきます。

なお、地域別では欧州、次いで米州の売上高が大きく、海外売上高比率は約9割にのぼります。世界各地に製造拠点があり、特にタイとベトナムでの生産量が多くなっています。

\* 紫外線に反応し、色の濃度が変化するレンズ

## ▶ 市場ポジション

当社は業界2番手であり、オーガニック成長に加え、M&Aにより市場シェアを拡大しています。市場シェアの3割弱が多数の中小規模レンズメーカーにまたがっており、こうした競合からのシェア奪取や買収を通じて、当社は継続的にシェア拡大を図っていきます。

## ▶ 地域別の状況

市場としては成熟しているものの、売上の約7割を占める欧米は今後も重要な市場と位置付けています。なかでも、米国については市場プレゼンスを拡大する余地が十分あり、現地法人の組織体制と販売力の強化を推し進めています。また、アジアにおいては中国市場の成長が著しく、当社はMIYOSMART（後述）をきっかけに中国での売上を大幅に成長させることができている。

## ▶ 今後の見通し

メガネレンズは、HOYAグループで最も売上規模が大きく、またライフケア事業の拡大をけん引する成長ドライバーです。

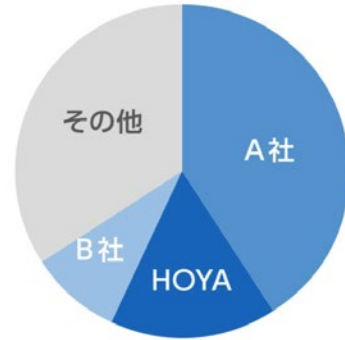
各地域における現地ラボの強化、グローバルな製造能力やリダンダンシーを高めることで、顧客の体験価値向上を図り、世界中のメガネ店/眼科医療従事者との関係を一層強固なものとしていきます。

各ライフステージの視力矯正ニーズに対応するための技術革新も重要です。なかでも、より良い視力を得るための治療的なソリューションが注目を集めています。小児近視進行抑制用レンズであるMIYOSMARTは、2018年の発売以来、世界で400万枚以上販売しており、当社は当製品カテゴリーをリードしています。同製品は現在30カ国以上\*で販売されていますが、今後はサングラス版や調光レンズ版の発売に加え、新たな市場にも展開していく予定です。

地域の面では、成長性の高い新興市場、なかでも中国における営業活動を強化し、市場シェアの拡大を図っていきます。また、独立系のメガネ店への売上比率が高い米国において、チェーン店向けビジネスのプレゼンス拡大を目指します。顧客へのリーチ拡大のために、M&Aも活用していきます。

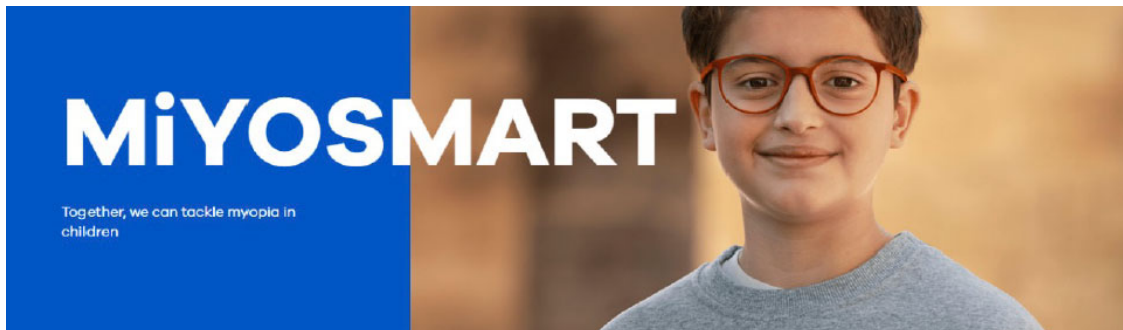
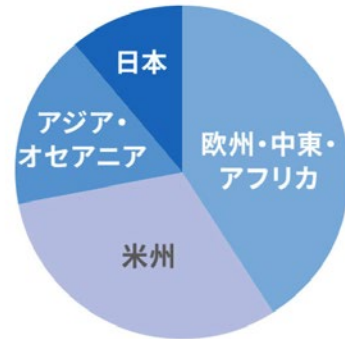
これらの取り組みにより、従来の成長率（1桁前半～半ば）よりも高い成長性を目指していきます。

市場シェア  
(2022年度)



(当社推計、金額ベース)

地域別売上高構成比  
(2022年度)



\* 2023年8月時点本邦未承認品です。

詳しくは[MiYOSMART公式サイト](#)をご参照ください（英文のみ）

## コンタクトレンズ

### 市場環境

わが国におけるコンタクトレンズ小売市場は、少子高齢化を背景に、1%程度の緩やかな成長となっています。

直近の年度においては、新型コロナウイルス感染の沈静化による外出機会の増加により、コンタクトレンズの装用回数が回復し、市場は通常よりも高い成長率となりました。また、新型コロナウイルスをきっかけに、インターネット経由でのコンタクトレンズ購入機会が増加したと思われます。

若年層の近視率の上昇や、遠近両用コンタクトレンズの普及による装用者年齢の上昇に伴う需要増や、高付加価値レンズの販売増による平均販売単価の上昇などにより、今後も市場はわずかながらも拡大していくと推定しています。

### 当社の状況

#### ▶ 事業概要

日本全国に約360店舗展開するコンタクトレンズ専門小売店アイシティを運営しています。アイシティでは、お客様一人ひとりに合った最適な商品をご提案するコンサルティング販売と、世界中の大手メーカーから取りそろえた幅広い商品ラインナップを強みとしています。店舗は駅の近くや、ショッピングセンター内など、利便性の高い立地にて展開しています。また、近年増加するオンライン購入へのニーズに対応する「おトク定期便」「ほしいとき便」を展開しており、好評を博しています。



また、2022年3月より自社ブランドのコンタクトレンズhoyaONEシリーズの製造・販売を開始しました。コンタクトレンズ小売チャンネルを有する強みを活かした垂直統合型の戦略を推進していきます。

#### ▶ 市場ポジション

コンタクトレンズ販売チャンネルのうち、最も大きなカテゴリーであるコンタクトレンズ専門店において50%以上のシェアを擁しています。コンタクトレンズ専門店はラインナップの豊富さや価格の優位性などから、今後も眼科チャンネル等からのシェアの移転が進むと予想されます。

一方で、近年はインターネット通販のシェア拡大が進んでおり、同チャンネルにおける対応が市場ポジションを左右すると思われます。

#### ▶ 今後の見通し

当社はこれまで、毎年15-20店舗出店することで面を拡げる戦略をとってきましたが、店舗数が全国で約360店と高い水準に到達したことに鑑み、成長戦略の転換を進めています。

具体的には、既存店における顧客リテンションの改善、高付加価値品による顧客単価上昇を図ることによる成長を目指しています。

また、拡大するインターネット通販へのニーズに対応すべく、「ほしいとき便」「おトク定期便」をはじめとするオンライン販売サービスの強化を推し進めていきます。

販売チャンネル別売上高  
構成比 (2022年度)



コンタクトレンズ専門店での  
HOYAのシェア  
(当社推計、金額ベース)

以上に加えて、プライベートブランドhoyaONEシリーズの販売に注力し、1桁半ばの成長率を目指しています。



## メディカル関連製品

### 医療用内視鏡

#### 市場環境

社会の高齢化に伴い、世界的に医療費が増加しています。各国政府が医療費増加の抑制のために、疾病の早期発見および低侵襲医療を推奨するなか、患者の体にメスを入れずに体への負担を極力抑える低侵襲治療へのニーズから、内視鏡に対する注目が高まっています。

内視鏡機器市場は、先進国において成長が緩やかになっていますが、内視鏡の普及段階にあるアジアにおいて高い成長が続いており、なかでも中国が今後のグローバル市場の成長をけん引すると見られます。

#### 当社の状況

##### ▶ 事業概要

消化器、耳鼻咽喉、呼吸器などの検査や処置に使われる医療用の軟性内視鏡の研究開発・製造・販売をおこなっています。軟性内視鏡は、患者の体内に挿入するスコープと、画像処理等をおこなうビデオプロセッサを含む本体で構成され、これを医療機関、医療機関の共同購買組織、販売代理店などに対して販売しています。



##### ▶ 市場ポジション

高画質化、超音波内視鏡、画質・外径・チャンネルサイズのバランスの取れた細径内視鏡、洗浄消毒性に配慮した製品を強みに、グローバルでシェア3位となっています。

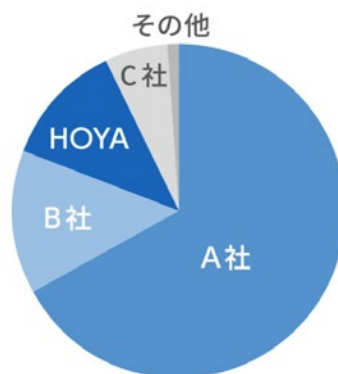
##### ▶ 地域別の状況

地域別に見ると、欧州をはじめとする海外での売上高が大部分を占めています。

##### ▶ 今後の見通し

高齢化社会の進展や低侵襲医療への需要拡大により、医療用内視鏡の市場は1桁半ばから後半の成長が予想されます。

市場シェア (2022年度)



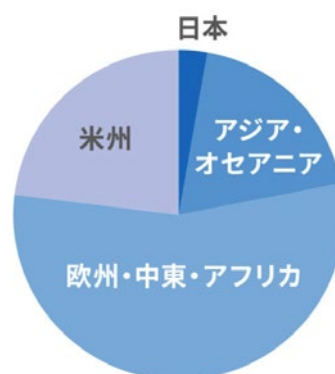
(当社推計、金額ベース)



短期においては、新型コロナウイルスからのリオープニング（経済再開）により、医療機関における内視鏡利用の増加ならびに新規購入・買い替え需要の増加が継続すると見られます。他方、画像処理をおこなうプロセッサ向けの電子部品の供給量は徐々に増えてきているものの、需要を完全に充足できるようになるにはまだ時間がかかる見込みです。

以上のような環境下で、2023年度はシングルユース内視鏡の販売地域の拡大や、新製品であるハイエンド・ビデオプロセッサおよびビデオ消化器スコープの各国での上市を予定しています。

地域別売上高構成比（2022年度）



PENTAX Medical ONE Pulmo  
(シングルユース気管支内視鏡)



PENTAX Medical INSPIRA™ Video Processor EPK-i8020c, i20c series scope  
(ハイエンドビデオプロセッサ、ビデオ消化器スコープ)



## 白内障用眼内レンズ

### 市場環境

世界的な高齢化、新興国での医療インフラの普及、先端医療技術へのアクセシビリティの向上などを背景に白内障用眼内レンズに対する需要は増加しています。白内障は、水晶体が白く濁り視力が低下する病気で、加齢により高い確率で発症し、世界において最大の失明要因となっています。白内障手術により、白濁した水晶体を摘出し、代わりに眼内レンズを挿入します。

従来型の単焦点レンズに加え、近年は三焦点や焦点深度が深いタイプといったハイエンド製品の市場投入により、1桁半ばの市場成長となっています。

短期的には、新型コロナウイルスの影響からの回復が遅れていた日本などで通常よりも高い成長率が見られています。

### 当社の状況

#### ▶ 事業内容

白内障用眼内レンズ（IOL）および眼科医療器具の研究開発・製造・販売をおこなっています。

30年以上にわたる眼内レンズ事業における知見に基づき、数百万人に及ぶ白内障患者の視力とQuality of Lifeの改善に貢献しています。

HOYAの強みである光学技術と眼内レンズ用インジェクター開発の知見を組み合わせたプリロード式眼内レンズ※はグローバル市場で高い評価を得ており、同製品カテゴリーにおいてグローバル市場でトップシェアを有しています。

※眼内レンズがインジェクターの中にあらかじめ装てんされており、より安全で確実な手術が可能となります。



Vivonex™

## ▶ 市場ポジション

市場シェアは順調に拡大しており、現状はグローバルで3位となっています。当社は主力製品であるVivinex™（2015年に上市）の製品競争力により、市場を上回るペースで成長を続けています。Vivinex™は透見性の高いレンズ素材と独自技術を兼ね備えたインジェクターmultiSert™を組み合わせた製品で、安全で確実な白内障手術を可能にするソリューションを提供しています。

## ▶ 地域別の状況

売上高を地域別に見ると、日本国内での売上が4割となっています。

継続的に販売対象国を拡大させており、海外売上比率が高まってくる見込みです。

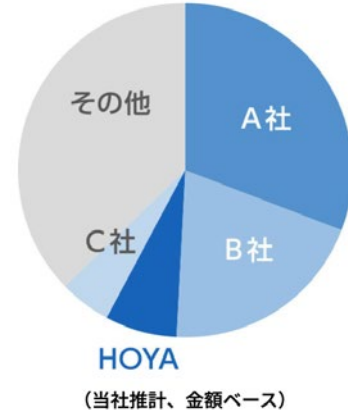
## ▶ 今後の見通し

今後は付加価値の高い三焦点眼内レンズ（Vivinex Gemetric）の販売を拡大することで、より幅広い顧客のニーズや期待に応えていきます。

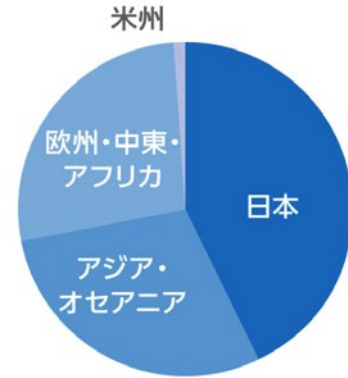
また、既に営業拠点のある地域の営業人員の強化はもちろん、プレゼンスのない地域についても販売子会社の設置や販売代理店等を通じて順次参入することでTAM（Total Addressable Market）の拡大を図ります。なお、2023年1月には、眼内レンズの需要が高まる韓国に販売子会社を設立しました。

以上の取り組みにより、眼内レンズの市場成長率（1桁半ば）を超える成長を図っていきます。

市場シェア（2022年度）



地域別売上高構成比  
(2022年度)



## セラミックス製人工骨・金属製整形インプラント

### 市場環境

日本における高齢化に伴う骨折や疾患の増加により、その治療に有効な整形外科・脳神経外科向けのインプラントの市場は今後も成長が継続する見通しです。

### 当社の状況

#### ▶ 事業内容

骨の欠損部の補てんや、骨折部の接合に使われるセラミックス製人工骨および金属製のインプラントを開発・製造し、主に日本国内の医療機関に供給され、多くの患者様の治療に貢献しています。

#### ▶ 市場ポジション

当社はセラミックス製市場において、日本で初めて人間の骨とほぼ同成分を持つアパタイト製品を製造・販売し、常に日本市場をリードしてきました。金属インプラントに関しては2012年に日本ユニテックとの経営統合により市場へ参入し、日本人の骨格に最適な形状やサイズのインプラントの製造・販売をおこなっています。特に橈骨遠位端骨折向けインプラントでは幅広い製品ラインナップを展開し、市場シェアトップとなっています。（症例ベース・当社調べ）

#### ▶ 今後の見通し

セラミックス製人工骨でのシェアを維持しながら、新たな用途の開拓により、市場の拡大を図ります。金属製インプラントでは製品ラインアップの拡充や営業力の強化により患者様や医療機関のニーズに応えます。またセラミックス製人工骨と金属のインプラントの両方を製造・販売をおこなっている強みを生かし、両素材の製品を組み合わせた新しい手術手技の提案により他社との差別化を図ります。



バイオアクティブセラミックス製インプラント「バイオベックス」



橈骨遠位端骨折向け金属製整形外科用インプラント「HTS Stellar D」

## クロマトグラフィ用担体

### 市場環境

バイオ医薬品の開発・製造に不可欠な、分離・精製用担体（クロマトグラフィ用担体）市場は、バイオ医薬品市場の拡大に伴い、今後グローバルで10%超の高い成長率が見込まれています。

### 当社の状況

#### ▶ 事業内容

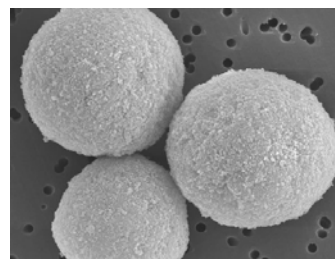
クロマトグラフィ用バイオセラミックス担体を製造し、ディストリビューターを介して販売され、世界中の製薬企業や研究機関で採用されています。

#### ▶ 市場ポジション

バイオ医薬品の分離・精製には、さまざまな方法がありますが、当社の球形ハイドロキシアパタイトセラミックス担体は、各種タンパク質に高い吸着特性を有しているため、精製プロセスにおいて、不純物の効率的な除去と高い分離性能を持つユニークな製品として、市場から高い評価を得ています。

#### ▶ 今後の見通し

抗体医薬、ワクチン、さらには遺伝子治療など、多様化するバイオ医薬品のニーズに対応するため、顧客や研究機関と協力して、製品・精製プロセスの開発を加速させるとともに、また増加する需要へ対応するため生産能力を拡大することでさらなる成長を図ります。



クロマトグラフィ用担体（拡大画像）

## 情報・通信事業

### エレクトロニクス関連製品

#### 半導体マスクブランクス

##### 市場環境

半導体市場は、周期的な景気循環がありつつも、クラウドコンピューティング、人工知能、IoTや自動運転などの技術の発展に伴い、長期的な成長が予測されています。より高密度で高性能な半導体を製造するために、回路パターンの微細化が進められており、なかでもEUV（極端紫外線）を使った露光技術の導入が拡大しています。

短期においては、市場がコロナ禍において活況を呈していたところから一転、2022年半ば頃より、市況が悪化している状況ですが、足元では生成AIに関連する半導体（GPUなど）に対する投資の活発化が見られ、また市場の周期性に鑑みて2024年以降の回復が見込まれています。

##### 当社の状況

###### ▶ 事業内容

半導体用ブランクスを研究開発・製造し、半導体メーカーやファウンドリ、マスクショップに対して販売しています。

半導体の製造工程において必要不可欠なフォトマスクは、半導体の微細で複雑な回路パターンを半導体ウエハに転写する際の原版となるもので、マスクブランクスはフォトマスクのベースとなる部材です。

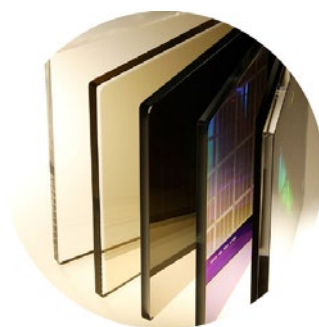
マスクブランクスは回路パターンごとに作られるため、半導体メーカーやファウンドリなどの顧客による新製品の開発、微細化に伴う研究開発においても必要とされます。

###### ▶ 市場ポジション

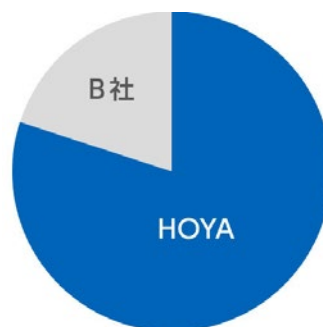
当社は顧客との緊密な連携の下、半導体の微細化・パフォーマンス向上に貢献してきました。こうした背景から、当社は半導体製造用マスクブランクス市場において、長年にわたって非常に高い市場シェアを保持しています。

中長期においては、EUVマスクブランクスにおける競合の増加が予想されますが、当社は欠陥の少ない製品や位相シフトマスクをはじめとする次世代製品における優位性を活かし、今後も業界をリードしていきます。

なお、当社は従来型の露光技術であるオプティカル（DUV）においても、引き続き高いプレゼンスを維持しています。



市場シェア（EUV）  
（2022年度）





## ▶ 今後の見通し

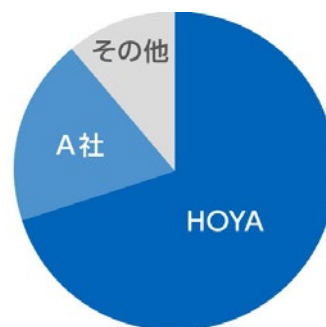
長期にわたってEUVマスクブランクス需要が成長する見込みです。

マスクブランクスは研究開発活動に関連する消費が多く、また消耗品ではないことから量産段階に紐づく需要が比較的少ないため、半導体市場の最終製品に対する需要との相関性が低い傾向があります。したがって、回路の線幅の微細化や、最終製品としてのデザイン数が成長の源泉となります。

2023年現在、EUV露光による3nm世代の半導体の量産が始まっており、今後2-3年ごとに2nm、1.4nmというように、より微細なノードへと進展していくとされます。微細化に伴い、顧客から求められる品質がより厳格になること（より欠陥の少ない製品）に加え、今後は位相シフトマスクやHigh-NA EUV露光に対応したマスクブランクスが求められています。

このような状況の下、当社は先端装置の導入や生産能力の増強を継続的におこなっています。2023年初頭には、シンガポールのEUVマスクブランクス工場の生産能力を増強、さらに追加でEUVマスクブランクス用検査装置の発注をおこなうなど積極的な成長投資をおこなっています。

市場シェア（オプティカル）  
（2022年度）



（当社推計、金額ベース）

## FPD用フォトマスク

### 市場環境

テレビ、パソコン、スマートフォン、自動車など、あらゆるものにFPD（フラットパネルディスプレイ）が使われています。

長い間、液晶がディスプレイ技術の主流でしたが、近年においては有機ELディスプレイがスマートフォンやハイエンドのテレビを中心に採用が進んでいます。

以上のような環境下、FPD向けフォトマスクは、液晶から有機ELへの移行や、画面が折り曲げられるフレキシブル有機ELといった新たな機能やデザインの開発により、堅調な需要が継続しています。地域的には、中国のディスプレイメーカーが市場成長をけん引しています。

### 当社の状況

#### ▶ 事業内容

FPDフォトマスクは、TV、スマートフォン、ノートPCなど向けのFPD製造時に、回路パターンを基板に転写するための原版として使われる重要な部材です。

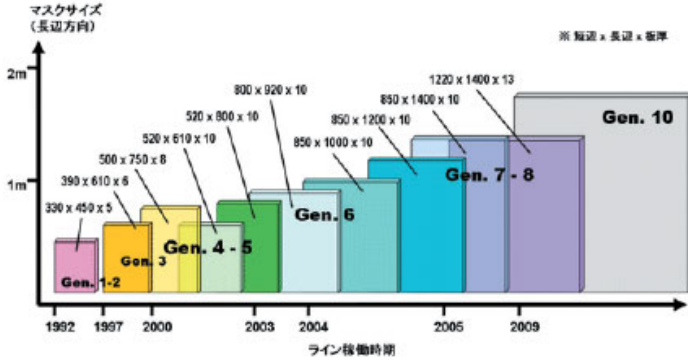
当社は、原材料メーカーから基板を仕入れ、基板に対して研磨・成膜・レジスト塗布をおこないます（ブランクス製造）。完成したブランクスに回路パターンの描画・現像・エッチング・レジスト剥離洗浄をおこない、ディスプレイメーカーに出荷します。（フォトマスク製造）



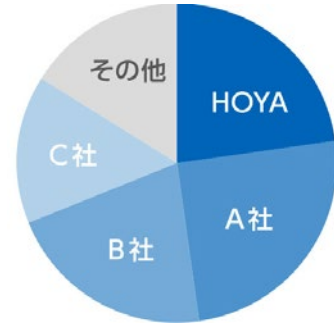
## ▶ HOYAのポジションと市場シェア

当社は高解像度マスクや位相シフトマスクなどの高精度品に強みがあり、市場シェアがトップクラスとなっています。

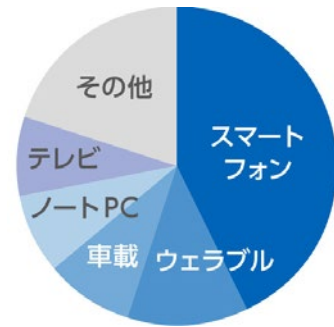
なお、FPDは、マザーガラスの大きさによって世代（Gen.）別に分類されていますが、当事業はGen.6-8の中型サイズが中心となっています。



市場シェア (2022年度)



用途別売上高構成比 (2022年度)



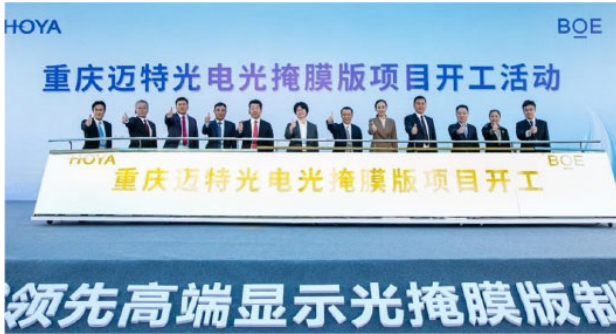
## ▶ 用途別売上高構成比

用途別の売上高構成比は右の円グラフのとおりです。

スマートフォン向けが最も大きな割合を占めていますが、ウェアラブルデバイスや車載向けをはじめ、新しい用途での売上が増加しています。

## ▶ 今後の見通し

今後も成長が見込まれている中型サイズ（Gen. 6-8）の高精度品に注力することで、堅調な事業の成長を図ります。また、成長が著しい中国のディスプレイメーカーの需要を取り込むべく、世界最大のディスプレイメーカーBOE社と2022年9月に合併会社Chongqing MasTek Electronics Co., Ltd.を設立しました。合併会社では、重慶市にFPDフォトマスクの工場を建設中であり、2024年初頭に竣工予定です。



Chongqing MasTek Electronics Co., Ltd.工場の着工式の様子

## HDD用ガラスサブストレート

### 市場環境

HDD（ハードディスクドライブ）市場は、データストレージの需要が持続的に高まっているため、中長期的には安定した需要が見込まれます。クラウドサービスやデータセンターなどの分野において、大容量で低コストなデータストレージが必要とされます。HDDは高い容量を提供し、比較的 low 価格で大量のデータを保存できるため、ニアライン※向けの用途で広く使用されており、今後もデータの生成量とともに長期にわたって成長が継続する見込みです。

他方、ノートPCやゲーム機などコンシューマ向け製品については、高速なデータアクセス、耐衝撃性、省電力性などの優位性を背景に、SSD（ソリッドステートドライブ）がHDDを置き換える状況が続いています。

なお、短期におけるHDD市場は、在宅勤務等を背景にコロナ禍において特需が発生していましたが、歴史的な物価高による個人消費支出の減退や企業の投資抑制を背景に、直近においては不安定な状況となっています。

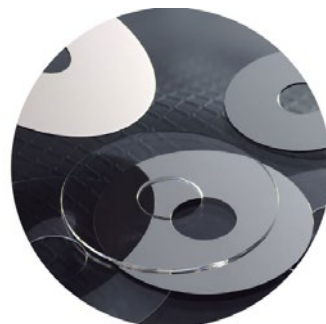
※オンラインストレージほど高速ではないものの、磁気テープなどのオフラインストレージと比べ、必要に応じてネットワークにつなぎ、高速なデータ通信ができるデータストレージ

## 当社の状況

### ▶ 事業内容

HDD用のガラスサブストレートの研究開発・製造・販売をおこなっています。原材料メーカーから基板原材料を仕入れ、これに対して円盤形加工・強化・研磨などをおこない、HDDメーカーや、サブストレートを磁気メディア化するメディアメーカーへ販売しています。

ニアライン用途の3.5インチ規格、ノートPC等のコンシューマ製品用の2.5インチ規格の製品を製造していますが、今日においては売上の大部分が3.5インチ規格となっています。



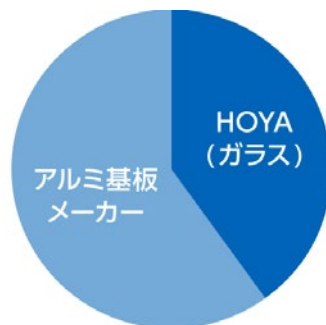
ニアライン向け3.5インチ基板  
市場シェア（2022年度）

### ▶ HOYAのポジションと市場シェア

HOYAは世界で唯一のガラスサブストレートメーカーで、市場シェアは100%となっています。

コンシューマ製品向け（2.5インチ）のサブストレート市場はすべてガラス製となっているため、当社は市場シェア100%となっています。

ニアライン向け（3.5インチ）のサブストレート市場においては、アルミ製とガラス製のものがあり、現在においてHOYAは40%程度のシェアと推測されます。データ生成量の拡大に伴い、より高容量なHDDが求められており、HAMR（熱アシスト磁気記録方式）などの次世代技術の導入や11枚機以上の多枚数化が進展すると予想されています。いずれもガラス製のサブストレートの導入が必要であり、将来におけるデータセンター市場におけるシェア拡大が見込まれます。



（当社推計、数量ベース）

### ▶ 今後の見通し

ニアライン向けの3.5インチ製品は、世界経済の停滞を背景に短期において需要が低迷していますが、ビデオストリーミング、ソーシャルメディア、eコマースをはじめとするオンラインサービス、デジタルトランスフォーメーションの進展、クラウドサービスや生成AIの利用拡大などにより長期にわたり持続的な成長が見込まれます。データの高容量化において優位性のあるガラスサブストレートは長期的にシェアが拡大する見込みです。

コンシューマ製品向けの2.5インチ製品は、今後もSSDによる置き換えが徐々に進展する見込みですが、同製品はすでに売上規模が小さいため、ガラスサブストレート事業全体への影響は限定的であると思われます。

## 映像

### 映像関連製品（光学ガラス材料・光学レンズ・LED光源など）

#### 市場環境

デジタルカメラ市場は、コロナ禍からのリオープンや、カメラメーカーによるミラーレスカメラ本体・交換レンズの積極的な新製品発売により、堅調に推移しています。また、ドライバーアシストシステムや衝突回避システム、駐車補助システムなどに使用される車載カメラについても市場成長が続いており、将来においては自動運転システム関連分野によるさらなる拡大が見込まれます。

## 当社の状況

### ▶ 事業内容

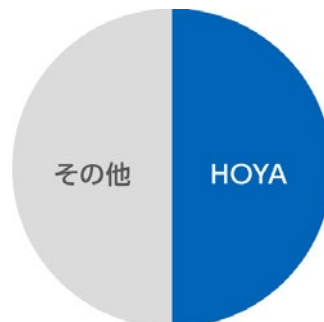
光学ガラス材料や光学レンズの研究開発・製造・販売をおこなっています。製品はミラーレスカメラ等の交換レンズや車載カメラなど、さまざまな用途で使用されています。当社は光学ガラス原料メーカーから原料を仕入れ、調合、溶解をおこない、レンズ材料やレンズ製品を製造し、カメラメーカー等に販売しています。



### ▶ 市場ポジション

当社は、光学ガラス組成の研究開発から、レンズの完成品製造に至るまでを一貫して手掛け、多品種大量生産を可能とする体制を整えています。

ガラス非球面モールドレンズシェア  
(デジタルカメラ関連において)  
(2022年度)



(当社推計、金額ベース)

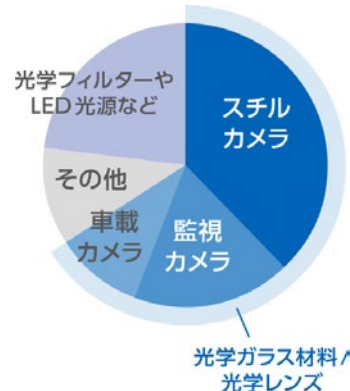
当社は、ガラス非球面モールドレンズ（GMO）に関して強みを持ち、高いシェアを維持しています。

GMOは、高温で軟化させた光学ガラスを直接プレス成形し、研磨をおこなわずに光学レンズ製品にするものです。収差補正に優れているため、光学系に使用するレンズ枚数を減少させ、最終製品であるカメラの小型軽量化・高機能化に貢献しています。

### ▶ 用途別売上高構成比

ミラーレスカメラ用の交換レンズやコンパクトデジタルカメラなどのスチルカメラ向けが売上の約4割を占めていますが、監視カメラや車載カメラなどの比較的新しい用途の売上比率が拡大傾向にあります。

用途別売上高構成比（2022年度）



### ▶ 今後の見通し

スチルカメラ向け製品は足元で堅調なものの、スマートフォンカメラの機能や画質の拡大により、今後も中長期では市場が緩やかに減衰する見込みです。他方、車載カメラ用製品については、先進運転支援システム（Advanced Driver-Assistance System: ADAS）向けの用途が拡大する見通しです。また、AR/MR向けの光学製品をはじめ、新たな用途の開拓を継続的に進めていきます。